

## きほくのまち人探訪

### 「医師となり地域医療に貢献したい」



ふなこし ゆうじん  
船越 裕迅さん

鬼北町医師確保奨学金貸付制度の第1号として、制度の適用を受けた船越裕迅さん。医師を志し、この春、岩手医科大学に進学しました。

この制度は、医師を目指す方に大学の修学や入学に要する資金を貸し付けるもので、貸し付けた奨学金は、医師になった後、北宇和病院などの町が指定する医療機関に一定期間勤務するなどの要件を満たすことで返済が免除されます。医師の確保と地域医療の充実を図るため、平成30年度に条例を整備しました。

中学生のときに、足のじん帯を痛め

た船越さん。担当医師の治療により、予定よりも早く完治したことがきっかけで、整形外科医を志すようになりました。船越さんは、八幡浜市出身。鬼北町の貸付制度は、母親が見つけた。県内の各市町にある同様の制度と比べ、対象者が限定されていなかったことや県内の地域医療に貢献したいという強い思いがあり、申請を決めたそうです。

3月31日、鬼北町を訪れ、兵頭町長から激励を受けた船越さん。「患者の方が私のことを家族のように思ってくれるような親しみやすい医師を目指したい」と力強く話していました。

## ALTの鬼の里Diary ~ Ada's編~

### 「I want to celebrate my mother and sister」



アメリカでは、5月に2つの大きなイベントがあります。1つは母の日です。いつも母の日には、素敵なカードを贈ったり、家事を手伝ったりして母に日々の感謝を伝えています。最近は花や宝石などのプレゼントを贈っており、今年も自宅に花を贈りました。今は会うことはできませんが、当日は素敵なメッセージをメールで送り、電話をかけて、母の日を祝いました。

もう1つのイベントは大学の卒業式です。アメリカでは日本とは異なり、卒業式は5月か6月に行われます。今年、妹が大学を卒業します。そして、

5月は妹の誕生日でもあります。私は、妹をお祝いするために、動画を作り、ビデオチャットを使ってパーティーを開くことにしました。とても楽しみです。

本当は妹に直接会って「おめでとう」と言いたいし、母の日には、レストランに母を連れていきたいです。しかし、今は新型コロナの感染を広げないためにも我慢が必要です。家族や生徒、鬼北に住む人たちを危険にさらしたくありません。一人一人ができる感染対策を積み重ね、早く今までのような日常が戻ってきてほしいですね。

## 地域おこし協力隊活動日記

### 「泉貨紙の紙漉きシーズンを終えて」

地域おこし協力隊2年目

あわの まさおみ  
栗野 正臣



鬼北町に引っ越してきてから約1年が経ちます。こちらの四季をようやく全て経験することができました。

春先は花粉症に怯えていたのですが、思いの外症状は軽く、事なきを得ました。

また、3月末には、種々の桜の木を見ることができました。私の通勤路でも多く見られ、特に広見川沿いの風光明媚な景色は、深く印象に残っています。

泉貨紙保存会では、4月の中旬に紙漉きが終了。昨年の12月から始めて、あっという間に終わってしまったという感覚です。「良質の紙を安定して漉く」というところまでは、全く到達できませ

んでしたが、泉貨紙の生産を一通り体験できたことが、自分の中では価値あることだと思っています。

これからは泉貨紙を広めていく活動がメインとなります。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、なかなか思うように動けない部分もあるのですが、今できる小さなことを探し、コツコツこなし、行ってみたいと思います。

